

研究主題

じっくり考え 共に考え 自分の言葉で表現する児童の育成
～Joyful Learning を目指して～

1 仮説

カリキュラムマネジメントによる学びの舞台を設定し、子どもたちが個で考えたり、集団で考えたりする活動を通して、学ぶ楽しさを実感すれば、自分の言葉で表現し、主体的に学びに取り組むことができるようになるだろう。

2 主題設定の理由

(1) 2022(令和4)年度の状況

【学校評価自己評価】

「授業で考えることはおもしろい」の肯定的評価は、目標値85%に対して、80.8%の結果であった。

〈成果と課題〉

- 子ども同士で対話をする場面が多く見られた。
- 「学びファイル」の振り返りを通じて、「できるが増えた」と感じる児童が増えた。
- 自主学習の内容が自分の得意不得意に応じた内容になってきている。
- 挑戦したことに対し、失敗を責めたり、恥ずかしいと思ったりする児童が減ってきた。
 - 発表に苦手意識をもつ児童がいる。
 - 主体的に授業に向かう児童は増えたが、深い学びや学力向上につながらない。
 - 高学年では、すぐに「答え」を求める姿や分かる人の説明を待つ姿がある。

【全国学力学習状況調査】

意識・正答率ともに平均値を下回った。

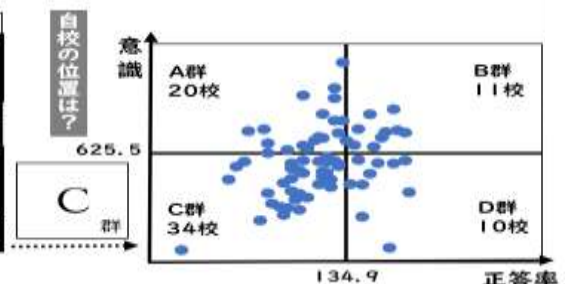
番号	質問事項（「主体的・対話的で深い学び」に関する項目）	「1」「2」を回答した児童の割合		
		国	本校(6年)	本校(5年)
32	今まで受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。	63.5	49.6	62.5
33	今まで受けた授業で、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。	78.2	67.5	80.5
34	授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものを作り出したりする活動を行っていましたか。	67.2	61	71.1
38	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。	78.3	69.1	78.1

【国語】(96) ※ () は国平均

	2018(H30)	2019(H31)	2021(R3)
A	77(70.7)	70 (63.8)	② 63 (64.7)
B	59(54.7)		

【算数】(96)

	2018(H30)	2019(H31)	2021(R3)
A	70(63.5)	67 (66.6)	③ 68 (70.2)
B	56(51.5)		
		②③正答率合計	131(134.9)



【標準学力調査】

・平均値を下回る学年が多かった。

1年				2年				3年					
		国語	算数			国語	算数			国語	算数	理科	
正答率 (%)	校内	80.2	84.7	正答率 (%)	校内	81.0	67.0	正答率 (%)	校内	71.6	71.0	60.5	
	自治体				自治体				自治体				
	全国	74.6	82.0		全国	82.0	70.5		全国	74.4	71.1	64.4	
標準スコア	校内	52.9	51.8	標準スコア	校内	49.5	48.3	標準スコア	校内	48.6	49.9	48.2	
	自治体				自治体				自治体				
	全国	50.0	50.0		全国	50.0	50.0		全国	50.0	50.0	50.0	

4年				5年				6年										
		国語	算数	理科			国語	社会	算数	理科			英語 A					
正答率 (%)	校内	69.8	64.2	59.0	正答率 (%)	校内	72.2	60.9	56.4	61.8	正答率 (%)	校内	68.1	59.3	56.6	63.0	79.7	
	自治体					自治体							自治体					
	全国	72.0	68.3	71.8		全国	72.7	65.8	60.0	65.6		全国	74.5	63.9	71.6	70.0	81.1	
標準スコア	校内	48.8	48.1	43.4	標準スコア	校内	49.7	47.5	48.3	48.0	標準スコア	校内	46.1	47.7	42.4	46.1	49.1	
	自治体					自治体						自治体						
	全国	50.0	50.0	50.0		全国	50.0	50.0	50.0	50.0		全国	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	

・評定Ⅰ（学力低位児童）の割合は、各学年約35パーセント程度であった。

各クラス10人程度が学力低位の児童であるといえる。

学年	新2学年	新3学年	新4学年	新5学年	新6学年
国語	20% (25)	28% (36)	32% (34)	35% (42)	28% (38)
算数	18% (23)	41% (53)	33% (36)	36% (43)	45% (60)
理科			44% (47)	51% (62)	39% (53)
社会					45% (60)

(2) 1年間子どもに向き合った先生方の実感として(研修等)

- ・子どもの「もっと知りたい」「もっとこうなりたい」が生まれたり、つながったりする単元構成が必要。
- ・子どもの基本的な学びの力をしっかりつけたい。
- ・子どもの多様な学びを保障する時間やカリキュラムが必要。
- ・子どもの学びを深めるためには、子どもも教職員も学びを「わくわく」「楽しむ」ことが大切。
- ・対話や振り返りを通して、自分の考えや成長に気付き、考えを深めたり、次の課題を見つけたりする子どもであってほしい。

など

3 2023(令和5)年度の取り組み

今年度も、昨年度の取り組み①②を踏襲し、新たに③の視点を設ける。

- ① 学びに向かう場の設定
- ② 「認知の仕組み」に着目した授業
- ③ 学力低位の児童に対する対策

(1) 学びに向かう場の設定

学習活動全体で目標設定の場・挑戦する場・振り返る場を保障し、児童が自己の成長を実感したり、達成感をもって過ごしたりできるようにする。

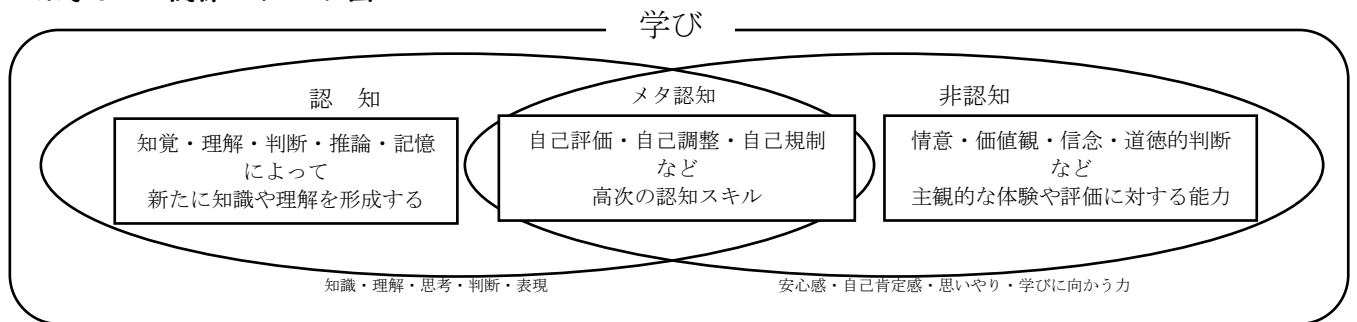
授業では、自分でじっくり考える時間の確保、仲間と対話する時間の確保と学習で育った実力が可視化されるテスト以外の評価場面（学びの舞台）を設定する。

(2) 「認知の仕組み」に着目した授業

主体的、対話的で深い学びにするために、「認知の仕組み」に着目し、授業の中でどのようなしかけづくりをすることができるのか探っていく。

※認知の仕組みとは、人が外界からの情報を受け取り、処理して知覚、認知するための脳内の仕組みのこと。

※学びとの関係のイメージ図



(3) 学力低位の児童に対する対策

学習の土台として、認知機能に含まれる5つの要素（記憶、言語理解、注意、知覚、推論・判断）に対応する、「覚える」「数える」「写す」「見つける」「想像する」力を伸ばす。

「やってみたい」「できそうだ」と思えるような導入の工夫を行う。

4 構想図

教務部・研究部

☆授業観察の日常化&学びの発信 ☆情報活用力の系統性の提示

- ・授業実践（子どもの力を信じ、子どもの思考に沿った主体的な学び）
- ・自己評価や他者評価の場の保障（三者懇談等）
- ・自己評価や他者評価の場の保障（三者懇談等）
- ・学びファイル（何をどう綴じるか見直す）
- ・自作テスト（子どもの学びに合った評価）
- ・授業研究、協議会（子どもの姿から語る）
- ・振り返りの視点の系統性活用
- ・ノーチャイム

じっくり考える
自己表現する

生徒指導部

- ☆子どもの力で学校を変えていく
子ども議会の設立
- ☆児童の意見から立ち上げた
新しい委員会の設立
- ・最高学年を中心とした縦割り掃除
- ・行事を、実行委員（児童）中心につくっていく

保健体育部

- ☆自己の成長を確認できる
体育ファイルの作成
- ・生活習慣の見直し
…トライウィークの実施
- ・1年間を通しての新体力テストの実施（課題の設定&再測定）
- ・予告なし避難訓練

5 研究の取り組み概要

(1) 授業

①研究授業

年間1回、全員研究授業を行う。

②見合いっこ授業

学期に1回、自由に授業を見に行く期間を設ける。

(2) 研修

①校内研修

「学ぶ楽しさ」「認知の仕組み」「評価」「個人テーマ作成」「調査の分析」など

②中学校区研修

年間5回 実践交流や振り返りを行う。

③校内自主研修

月に1回程度 自主的に研修を行う。(自由参加)

(3) 学力調査

①学びの達人

児童の認知力を調査し、1年間の指導に役立てる。

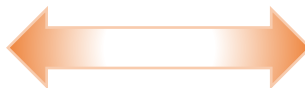
②全国学力・学習状況調査・学力の伸びを把握する調査・標準学力調査

結果を分析し、授業改善につなげる。

(4) 取り組みの具体



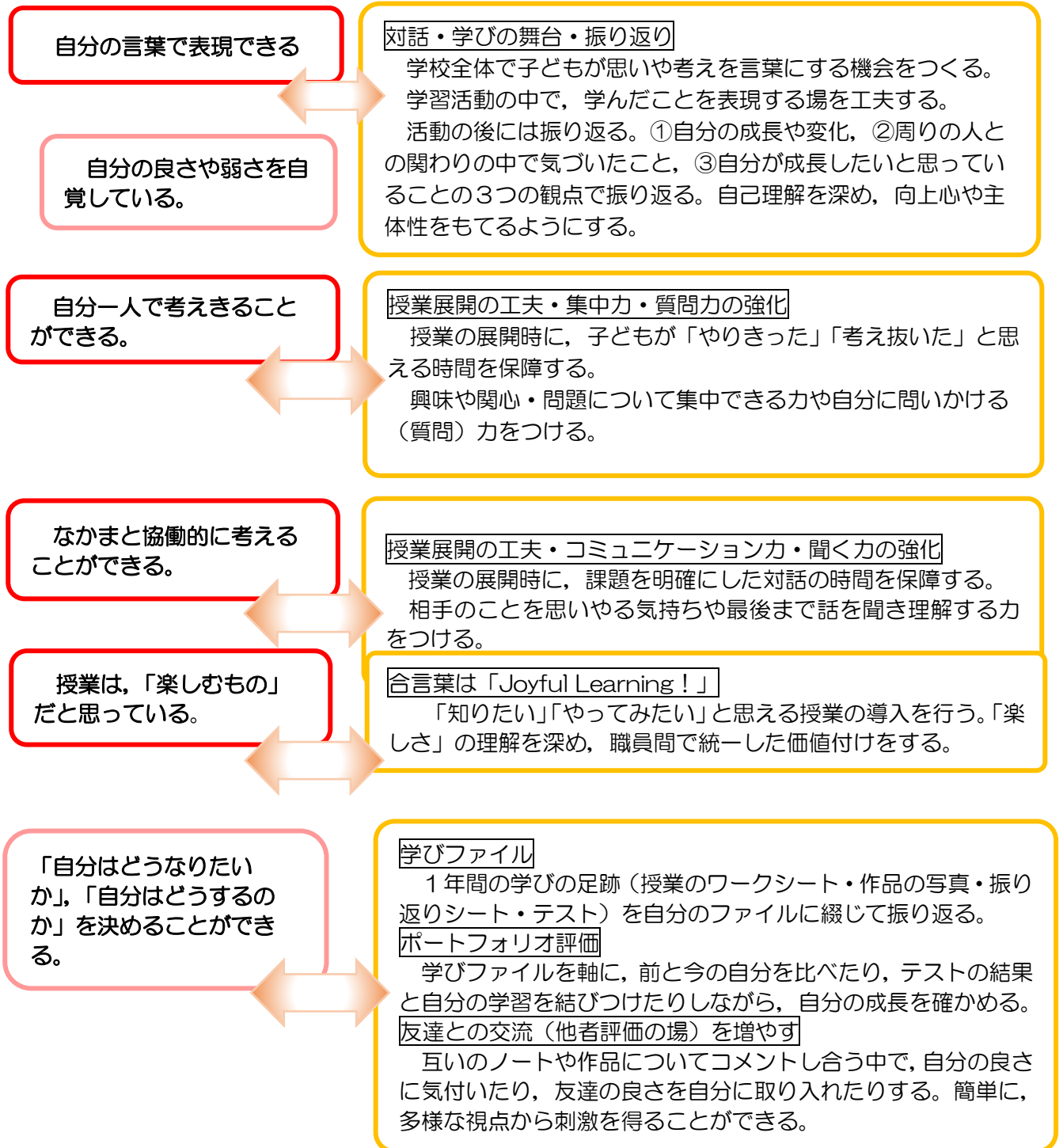
めざす
水呑の子ども像



このような取組をします。



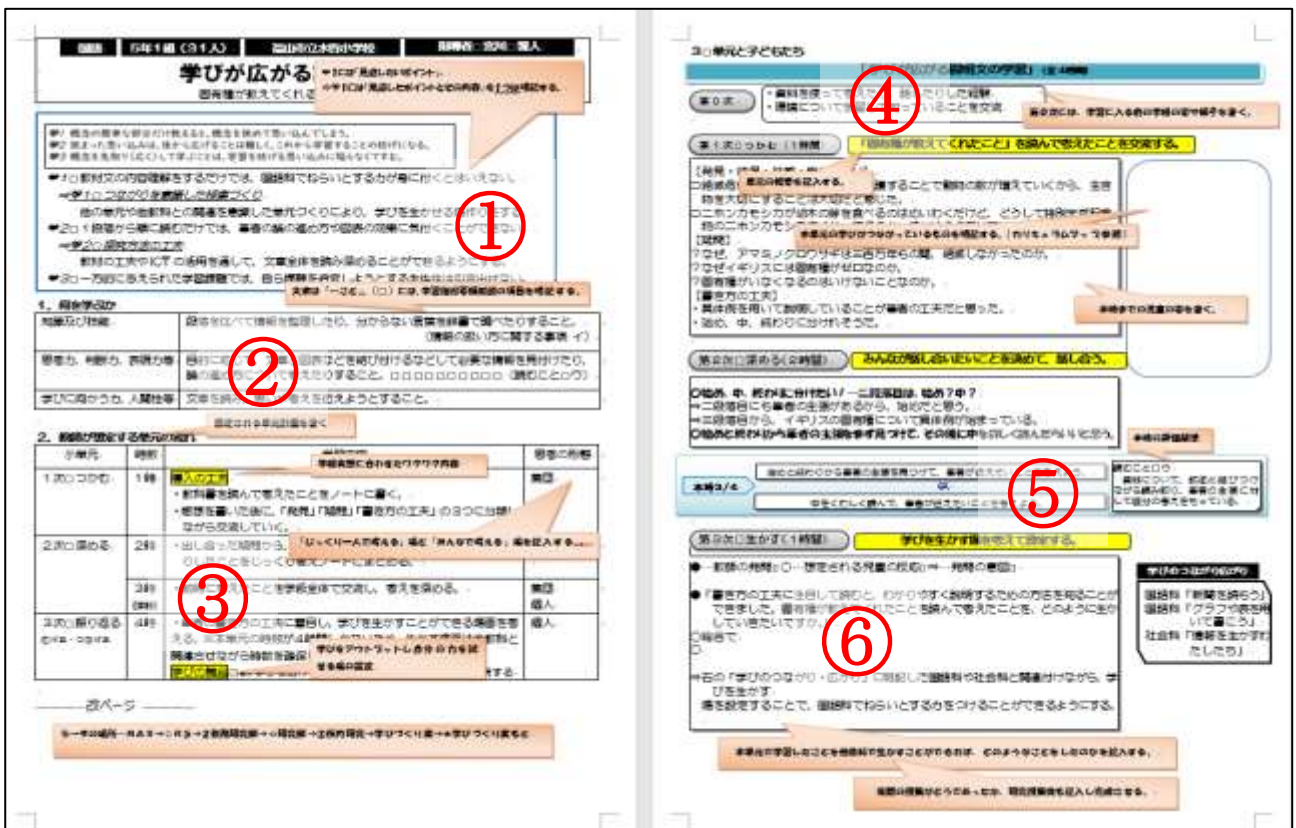
なるほど



6 研究授業

(1) 学びづくり案について

今年度の研究主題を凝縮した Joyful Learning パックとして位置づける。



① 認知の仕組みと単元でのつけたい力との関係を考える。

② 評価基準を決める。

③ 想定する単元計画を立てる。

※主に学力低位児童を意識した**導入の工夫**、定着・アウトプットとしての**学びの舞台**を記入する。

④ 実際の学習過程を記入する。

※他教科とのつながりも意識し記入する。

⑤ 本時の学習課題を記入する。

⑥ 単元の学習の終了後、学びづくり案を仕上げる。

こちらにあります。↓

データの場所…NAS→◇R5→2 教務研究部→
☆研究部→②校内研究→学びづくり案→★学びづくり案もと

(2) 研究授業の振り返りの視点

○ Joyful Learning であったか。

- ・ Joyful だった児童の様子・・・どのような学びの過程をたどったか。
- ・ Joyful でなかった児童の様子・・・どんな手立てが有効なのか。

※ Joyful の定義は、研修等を活用し学校全体で決める。

○ 個で考えたり、共に考えたりすることでねらいに迫ることができたか。



子どもたちの「できる」・「わかる」・「楽しい」のために一緒に挑戦していきましょう。